

～ 令和6年度 内部評価結果（指標の推移一覧） ～

各推進項目にまとめた内部評価結果におけるアウトプット・アウトカム指標の前年度比に対する増減に関する個数を一覧で確認できるよう整理しました。

※アウトプット・初期アウトカムの事業ごとの評価結果の指標を 「◎ 上昇」「→ 変化なし」「▲ 下降」「― 指標なし」で表しています。

推進項目1「広報・情報提供」		アウトプット				
		指標数	◎	→	▲	―
個別 施策	①SNS等を活用した学習情報の共有・発信	12	4	6	1	1
	②ライフスタイルの変化に対応した学習の情報共有	6	0	5	0	0
計		17	4	11	1	1

初期アウトカム				
指標数	◎	→	▲	―
14	6	4	1	3
6	0	1	3	1
19	6	5	4	4

○推進項目1「広報・情報提供」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットは主に「変化なし」、初期アウトカムはおおむね「上昇」「変化なし」という結果となった。
(2) 今後の方向性について
「現状維持」とする事業が大半を占めた。紙媒体や電子媒体による発信について、現在の発行部数・発信数から大きな変動は見込まれない。情報発信を効果的に行うことを工夫することに注力していく。
(3) 推進項目の課題について
本計画期間では、「フォロー数」や「いいね数」などの数値を参考に取り組みを進めているが、今後は生涯学習への行動や市民の関心の高まりをより的確に捉えられるような評価ができる仕組みも必要と考える。また、各SNSの特性を活かした効果的な発信を行うとともに、市民がライフステージに応じた情報にアクセスしやすくなるために庁内全体でそれぞれの媒体の特性を活かし効果的に活用できるような工夫が必要である。

推進項目2「相談」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	③生活課題等の相談・支援体制の強化	5	0	4	0	1
	④相談の場の充実	2	1	0	1	0
計		7	1	4	1	1

事業数	◎	→	▲	指標 なし
5	1	1	3	0
2	1	1	0	0
7	2	2	3	0

○推進項目2「相談」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットは主に「変化なし」、初期アウトカムは、主に「上昇」「変化なし」であった。個別施策③の内、3つの事業で相談数は減少しているが、地域包括支援センターでの相談数は約7,000件増となっている。高齢者人口の増加による影響等により、大きく増加した。
(2) 今後の方向性について
市民の多様な相談ニーズに対応し、地域コミュニティの活性化を図る取組は一定の成果を上げており、引き続き、誰もが安心して相談や交流ができる環境づくりを推進し、地域におけるつながりの強化と課題解決に向けた支援体制の充実を取り組んでいく。
(3) 推進項目の課題について
生活課題等に悩んでいる市民が生涯学習活動に一步踏み出せるような環境整備のため、相談窓口の認知度向上や専門機関との連携強化や、新たな集いの場の立ち上げ支援が必要である。

推進項目3「居場所・場づくり」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	⑤居場所のネットワーク化	5	0	2	1	2
	⑥場の提供（ハード面のサポート）	11	0	11	0	0
計		16	0	13	1	2

事業数	◎	→	▲	指標 なし
5	1	2	0	2
8	2	6	0	0
13	3	8	0	2

○推進項目3「居場所・場づくり」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
全体的に「変化なし」の事業が多かったが、前年比で10%未満の増加ながらも、施設の利用者数や来館者数が着実に増加している。
(2) 今後の方向性について
図書館、バルテノン多摩、市民活動・交流センター、ココス連光寺といった新規・リニューアルした施設は認知度向上や多世代交流ができる機能ができたことで今後もさらなる利用が見込まれる。一方、公民館の来館者数は横ばいであるが、多くの市民に来館いただけるよう学びの場や活動の場を提供していく。
(3) 推進項目の課題について
市内の公共施設においては、誰もが気軽に、そして多世代で利用できる環境整備が重要である。生涯学習につながる場の提供を進めるとともに、幅広い年齢層に利用が広がるような施設運営を行っていくことが課題である。

推進項目4「地域活動・地域づくり」		アウトプット				
		指標数	◎	→	▲	―
個別 施策	⑦地域団体との連携	7	2	4	0	1
	⑧地域活動の担い手育成	10	2	6	2	0
計		17	4	10	2	1

○推進項目4「地域活動・地域づくり」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットはおおむね「上昇」または「変化なし」となっており、特に（仮称）地域委員会構想に関する取組みでは、アウトプットおよび初期アウトカムが大幅に上昇した。一方で、個別施策⑧「地域活動の担い手育成」では多くの事業で、初期アウトカムの下降（参加者の減少）が見られた。
(2) 今後の方向性について
（仮称）地域委員会構想を中心に、様々な地域での協創の取組みを広げるとともに、引き続き様々な講座及びシンポジウム等を実施することで地域活動の担い手育成につなげる。
(3) 推進項目の課題について
地域活動の担い手を継続的に育成していくためには、関係課が連携し、市民の興味関心を踏まえた講座等を通して、人材や学習意欲の掘り起こしを図ることが課題である。また、地域特性に応じた支援を継続していくとともに、協創の仕組みやルールの本格的な運用、制度の周知・担い手の拡充、さらには市民の関心を高めるシンポジウムの開催などを通じ、市民参画と地域の活性化を着実に推進していく必要がある。

推進項目5「学習の機会づくり」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	⑨市民企画（提案）型講座・事業の拡充	6	1	1	3	1
	⑩多世代交流の場づくりの推進	13	1	11	0	1
計		19	2	12	3	2

事業数	◎	→	▲	指標 なし
6	3	1	2	0
10	3	7	0	0
16	6	8	2	0

○推進項目5「学習の機会づくり」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットについては、個別施策⑨は「下降」傾向にあり、⑩はおおむね「変化なし」となった。初期アウトカムは事業によって異なるものの、概ね大きな変化は見られず、前年度に引き続いて安定した事業が実施された。
(2) 今後の方向性について
コミュニティセンター・コミュニティ会館と児童館との連携のような、多世代にわたって誰もが人とふれあうことや地域と関わりを持とうとすることができる場や機会を作っていくことや市民企画講座のによる市民団体への支援のによる事業の拡充が期待される。
(3) 推進項目の課題について
今後も事業を継続していく中で、人材確保に向けて、活動のあり方の検討や事業自体の魅力や参加しやすさを高める工夫が課題である。

推進項目6「ボランティア・市民活動」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	⑪ボランティアセンターの充実	1	0	1	0	0
	⑫市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	8	1	4	0	3
計		9	1	5	0	3

事業数	◎	→	▲	指標 なし
1	0	1	0	0
9	2	6	1	0
10	2	7	1	0

○推進項目6「ボランティア・市民活動」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットは概ね「変化なし」となり、初期アウトカムも同様に「変化なし」がほとんどであった。「下降」の傾向が見られたものも僅かであり、大幅な変動はなく、前年度と同規模で事業が実施された。
(2) 今後の方向性について
ボランティア活動については、教育関係者や各分野の専門機関と連携し、SNSや子ども向け広報紙、新たな福祉体験学習メニュー、市内大学との事業連携などを通じて、子どもや若者がボランティアや市民活動に関心を持つ仕組みを検討・実施していく。
(3) 推進項目の課題について
様々なボランティア活動に取り組みるように更なる担い手の確保が求められる。ボランティア活動に関心を持ってもらうPRをして担い手を確保することが課題である。

～ 令和 6 年度 内部評価結果（指標の推移一覧） ～

各推進項目にまとめた内部評価結果におけるアウトプット・アウトカム指標の前年度比に対する増減に関する個数を一覧で確認できるよう整理しました。

※アウトプット・初期アウトカムの事業ごとの評価結果の指標を 「◎ 上昇」「→ 変化なし」「▲ 下降」「― 指標なし」で表しています。

推進項目7「大学・社会教育施設との連携」		アウトプット				
		指標数	◎	→	▲	―
個別 施策	⑬市内大学とのネットワークの構築	2	0	2	0	0
	⑭社会教育施設と大学機関の連携	1	0	1	0	0
計		3	0	3	0	0

初期アウトカム				
指標数	◎	→	▲	―
2	0	0	1	1
1	0	0	1	0
3	0	0	2	1

○推進項目7「大学・社会教育施設との連携」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットは現状を維持したものの、初期アウトカムは「下降」傾向であった。令和5年度と同規模の事業を実施したが、参加者数が減少となった事業もあった。
(2) 今後の方向性について
引き続き、社会教育施設は大学と連携し様々な事業を実施していく。事業数が増加傾向にあり、今後も増加が見込まれる。
(3) 推進項目の課題について
実績は増加傾向で大学連携のニーズが高い。各所管部署の事業ニーズと大学を意向の確認したうえで、マッチングに向けて調整し進めていくことが課題である。また、大学と連携した講義等の個別事業については、周知宣伝等といった広報の工夫を行い受講者数の増加を図ることが課題である。

推進項目8「誰もが学べる環境づくり」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	⑮オンライン・通信教育での学習サポート	3	1	1	1	0
	⑯シチズンシップ学習の拡充	4	1	3	0	0
	⑰様々な状況に応じた学習・生活のサポート	6	1	3	2	0
計		13	3	7	3	0

事業数	◎	→	▲	指標 なし
4	2	1	1	0
4	2	1	1	0
6	2	2	2	0
14	6	4	4	0

○推進項目8「誰もが学べる環境づくり」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットはおおむね初期アウトカムの増減傾向については事業ごとにはばらつきがあった。
(2) 今後の方向性について
全体としては、基本的に「現状維持」の見込みである。ただし、在住外国人の増加に伴い、外国人支援や国際交流に関する事業は今後の需要増が見込まれている。また、平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する関連講座・事業では、中学校で全年対象の出張講座を実施するなど参加者数が大幅に増加しており、引き続き普及事業をより多くの世代に展開する。
(3) 推進項目の課題について
外国人や障がい者など、新たな参加層に対しては、多様な背景や特性を持つ人々の視点に立ち、参加における障壁やニーズを的確に把握・分析することが求められる。その上で、言語面や情報提供の方法、会場環境などの配慮を含めた具体的な工夫や支援体制を整え、誰もが安心して参加できる環境を整備することが課題である。

推進項目9「市民協働の機会づくり」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	⑱市民・民間・行政が一体となった事業等の実施	7	0	5	2	0
	⑲各種イベント等の企画・運営への市民参画の推進	4	0	3	1	0
計		11	0	8	3	0

事業数	◎	→	▲	指標 なし
7	1	2	4	0
5	0	3	2	0
12	1	5	6	0

○推進項目9「市民協働の機会づくり」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットはおおむね「変化なし」であり、また、初期アウトカムについては上昇した事業もあるが、半分が「下降」となっている。
(2) 今後の方向性について
一部の事業では集客数が減少したものの、聖蹟桜ヶ丘地区においては、せいせきみらいフェスティバルが終了したが、新たに地域の賑わい・交流の場などのために整備された「せいせきカワマチ」（多摩川河川敷芝生広場）の活用が期待される。
(3) 推進項目の課題について
いずれの事業についても、持続可能な形を模索しながら市民との協働を継続していく。来場者増加に向けた事業の認知度向上が必要であり、加えて、いくつかの事業では世代交代と、担い手の確保が課題となっている。

推進項目10「連携・協働による子どもの成長への支援」		アウトプット				
		指標数	◎	→	▲	―
個別 施策	㉔子育てに関わる者へのサポートの充実	7	0	6	1	0
	㉕学校と地域との連携強化	6	0	5	1	0
計		13	0	11	2	0

初期アウトカム				
指標数	◎	→	▲	―
7	1	3	2	1
6	1	2	2	1
13	2	5	4	2

○推進項目10「連携・協働による子どもの成長への支援」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットは全体的に「変化なし」となり、前年度と同じように安定した事業運営がなされた。初期アウトカムは事業ごとによってばらつきがあったが、おおむね現状を維持している。コロナ禍で規模を縮小していたが、コロナ禍以前の水準に戻った事業も見受けられた。
(2) 今後の方向性について
各事業のニーズが高いため、いずれも事業を展開・拡充していく方向で事業実施の拡大や、手法の検討を行っていく状況である。
(3) 推進項目の課題について
事業を今後さらに展開・拡充していくにあたっては、実施手法の見直しに加え、ボランティアスタッフなどの人手の確保が大きな課題となっている。各教育機関との連携を強化し、子育て世代の関心・ニーズに応じた事業内容の検討と実施を進めることも必要である。

推進項目11「持続可能で元気な地域づくり」		事業数	◎	→	▲	指標 なし
個別 施策	㉖健康まちづくりの推進	3	0	3	0	0
	㉗企業連携による学習・教育の推進	4	1	2	1	0
	㉘SDGｓの取り組みの拡充	3	0	3	0	0
計		10	1	8	1	0

事業数	◎	→	▲	指標 なし
4	1	2	0	1
4	3	1	0	0
3	2	1	0	0
11	6	4	0	1

○推進項目11「持続可能で元気な地域づくり」に関する考察

(1) アウトプット・初期アウトカムについて
アウトプットについては、おおむね「変化なし」となった。初期アウトカムについては、特にスポーツ関連事業において参加者数の増加が多く見られた。
(2) 今後の方向性について
国際目標であり、第6次総合計画においては基本計画の前提と位置付けられた「SDGｓの取り組み」や、同じく総合計画で分野横断的に取り組むべき重点テーマとして挙げられている「健康まちづくりの推進」は引き続き全庁での取り組みを進めていく。企業連携については、プロスポーツ団体・企業との協働事業に注力していく。
(3) 推進項目の課題について
市単独の事業ではないことがほとんどのため、関係する市民や企業との更なる連携が必要である。市民の関心を引き、参加を促進するための手法を工夫しながら、事業を継続的に実施していくことが求められる。